

優秀賞（国土交通事務次官賞）

△作文（小学生）の部▽

『土砂災害を防ぐしせつのはたらき』

茨城県常総市立三妻小学校 四年 草間 陽大

今年の五月六日、ぼくは家族とつくば市ほうじょう地区近くの室内プールで遊んでいました。するととつぜん、たつまきが目の前を横切りました。ぼくはそこで、自ぜん災害のおそろしさを目の当たりにしました。それにこの夏、九州では、大雨がつづき土砂災害もおこりました。岩や水が流れてきて、多くの人が苦しそうにしているのをニュースでみました。中には、土砂災害を防ぐしせつがたくさんある山もあり、その山のふもとの住人は助かったと聞いて、そのしせつはすごいなと思いました。ぼくは、そのしせつのがよく分からなかったので調べてみました。すると、次のようなものがあるということが分かりました。

代表的なものは、砂防えんていです。砂防えんていとは、土石流による災害を防ぐしせつです。大雨がふつたときに上流から流れてくる土砂を一時的にためて、そのあと何年もかけて少しずつ下流に流すはたらきをしています。土石流は急な川でおこりやすいので、土砂をためると水の出口がふさがれて水がもり上がり、流れがゆるやかになるので、土石流がおきにくくなるそうです。しかし、魚や水にすむこん虫の行き来がむずかしくなります。そのため、オーブタイプのもがあります。魚にやさしいのは、コンクリートスリット砂防えんていです。えんていに、二つから三つ位切れ目が入っていて、たまたごをうむため川を上ってきた魚も、この切れ目を通して上流へいくことができます。水にすむこん虫、は虫類、両生類にやさしいのは、こうせいスリット砂防えんていです。ジャングルジムのような形をしていて水にすむこん虫もパイプとパイプの間を通して行き来することができます。しかし、これらのえんていは、たまつた岩や流木をほとんど人の手でとりのぞかなければなりません。今後は、人や自ぜんにもやさしく、役に立つような砂防えんていができたらいいななと思いました。

土石流を防ぐしせつでもう一つは、山ぶく工です。地面がむきだしになった急な山だと、どんどん土砂が流れ出してしまいます。木を植えることで土砂災害は防ぐことができるのだそうです。でも木を植えるには、急なしゃめんのままではうまく植えることができません。まず、山のしゃめにだんだんの切りこみを入れます。次に、土が下に流れたりしないようにさくをつくります。そして、その土地にあった木を選んで植えるというものです。ぼくがもし、その土地にあった木を植えるとしたら、どのようなものがいいか分からなくてこまってしまいます。工夫をしていて、山ぶく工をする人はすごいななと思いました。

調べてみると、他にもたくさん、がけくずれや地すべりなどの災害を防ぐためのしせつもあり、考えられているのだなあとおどろきました。ぼくは、土砂災害が日本でおこりやすい理由はなんだろうと思います。日本はよく雨がふり、地震が多く、山が多いため急な川も多いからだと思います。このように土砂災害が多いため、日本は色々なしせつが整っています。砂防の仕事は、土砂災害を防ぐ役わりをしています。砂防はSABOと書いて世界共通語になっていると知りおどろきました。また、みんなに川に親しんでもらえるように流れをゆるめた親水公園もあります。ぼくの家の近くを流れるきぬ川は、おじいちゃんの時代は川をプールがわりにして遊んでいたと聞きました。その後、東京オリピックのしゆとけん道路をせいびするため、きぬ川の砂が使われてたらしいので、ぼくは、そのせいで川の流れが急で深い川になったのではないかと思いました。げんざいは、きぬ川で遊ぶことはきけんなので近くには行きません。ずっときぬ川の近くに住んでいます。下流のきぬ川の水を一度もさわったことがありません。かいだんや川原を作って、みんなが親しめる川になればいいななと思いました。また、砂防えんていや山ぶく工、他のしせつがもっとたくさんできたら安心できると思います。

ぼくは、自ぜん災害はおそろしいと思いました。土砂災害、地震、台風、たつまきなどの災害はいつでもおこるか分からないので、急に災害はおこるかもしれないということをつねにいしきして、すごしたいと強く思いました。日本が土砂災害に強く、もっとくらしやすい国であってほしいとねがっています。